

2022 年度 事業計画書

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会

公益目的事業1

高等学校における文芸教育振興のための助成

第57回 高校生のための文化講演会〈事前収録講演〉

予算 5,568 万円

作家、評論家、大学教授など様々な分野で活躍中の方々を講師として、全国の高校生を対象に講演会を実施します。成長過程にある高校生に読書や学ぶ喜びを伝え、未来の指針を考える契機となることを企図しています。累計で開催校は全国4,205校、聴講生徒数は357万人を超えています。

従来は、講師を学校に派遣して活動を行ってきましたが、今年度は感染リスクを避けるため事前収録した講演DVDを学校に送付して、授業時間の一環として聴講してもらうかたちで講演会を実施します。

前期を6月、後期を9月。それぞれ3週間にわたり、全国都道府県の高等学校74校を対象に、講演DVDを送付します。

●実施概要

企画名	第57回 高校生のための文化講演会〈事前収録講演〉
主催	公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、各新聞社 37社
後援	文部科学省(予定)、都道府県教育委員会(予定)、集英社 ほか
期間	前期:2022年6月1日(水)～6月30日(水) 後期:2022年9月1日(水)～9月30日(金)
会場	講師:都内貸会議室で収録、生徒:講演DVDを各学校にて聴講
講師	作家、評論家、大学教授など様々な分野で活躍する著名な方々 (奥泉光氏、村山由佳氏、島田雅彦氏、鴻巣友季子氏、鎌田實氏 他 計約30名)
図書寄贈	集英社文庫 100冊セット、集英社国語辞典、講師著書
配布物	冊子「読書への招待 2022」、講師紹介チラシ

※新型コロナウイルスの感染状況により、新聞社、学校と協議を重ねた上で一部延期、一部中止となる可能性もあります。

公益目的事業2

高等学校及び高等学校生徒を対象とする創作活動に対する顕彰、助成

第42回 全国高校生読書体験記コンクール

予算 2,291 万円

「読書体験記」は、特に心に残っている本、大切にしている本を取り上げ、どのような状況でどのように読んだか、どのような影響を受けたかなどを書くことで、読書が自らの人間形成にどれほど重要なものであるかに気づいてもらうために企画した事業です。

2021年度「第41回 全国高校生読書体験記コンクール」には、全国449校から約83,000編の応募がありましたが、受賞者を囲んでの表彰式は中止いたしました。

今年度もひとりでも多くの高校生がコンクールに参加してくれるよう、告知、発表などを工夫していっそう充実を図ります。

運営にあたっては、地方選考、中央選考、表彰式の開催などにおいて新型コロナウイルス感染防止に努め、万全を期した運営をいたします。

●実施概要

企画名	第42回 全国高校生読書体験記コンクール
主催	公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会
後援	文部科学省、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会 (以上予定)、集英社、各新聞社(36社) 他
告知	2022年6月応募要項一式を全国の高校 約5,700校に送付
応募締切	2022年9月30日(当日消印有効)
都道府県選考	2022年10月1日～10月中旬
中央選考会	2022年12月上旬
中央入賞発表	2022年12月中旬(中央入賞者へ通知、各新聞社には書面にて通知)
財団HP広報	2023年1月中旬
表彰式・懇親会	2023年1月下旬

●中央選考委員(予定・敬称略)

辻原 登(作家)、穂村 弘(歌人)、角田光代(作家)
 文部科学省初等中等教育局主任視学官
 全国高等学校長協会

●選考方法

都道府県別選考会で入選作5編(優良賞1編・入選4編)以内を選出し、各都道府県の優良賞47編の中から、中央選考会において、中央入賞8編*を決定する。

*文部科学大臣賞1名、全国高等学校長協会賞2名、一ツ橋文芸教育振興会賞5名

●賞

中央入賞8名	
文部科学大臣賞1名	賞状・楯・記念品
全国高等学校長協会賞2名	賞状・楯・記念品
一ツ橋文芸教育振興会賞5名	賞状・楯・記念品
優良賞39名	賞状・記念品
入選188名	賞状・記念品

●学校賞

中央入賞者在学校	楯・集英社文庫100冊セット
優良賞入賞者在学校	集英社文庫50冊セット
入選者在学校	集英社国語辞典

公益目的事業3

青少年の健全な育成に関する調査研究、実践活動を行っている団体及び個人を後援、助成

① 「中国 高校生日本語作文コンクール」への助成 予算200万円

「中華人民共和国 高校生日本語作文コンクール」は、「一般財団法人 日本児童教育振興財団」内「日本青少年研究所」が主催する事業で、中華人民共和国で日本語を学ぶ高校生たちが日本語で綴った作文を顕彰するものです。2015年度から助成を開始、今年

度も助成したいと考えます。

2022年度は、コロナ禍のため生徒たちの安全面を考慮して、表彰式（受賞者50名・予定）はオンラインで実施、15名（予定）の訪日代表を選抜し、日本の高校生と交流します。日本訪問の時期は未定ですが、適時に実施される予定です。

●実施概要

企画名	第26回 中国高校生日本語作文コンクール
主催	一般財団法人日本児童教育振興財団 内 日本青少年研究所
共催	中国青少年研究中心
協賛	日本加除出版 株式会社 公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会 東京上野ロータリークラブ
応募	2021年10月1日～12月24日 応募数572作 応募校107校
審査会	2022年3月16日（一等賞50名、二等賞50名を決定）
表彰式	2022年8月中旬（オンライン表彰式） 一等賞受賞者50名参加、訪日研修の代表15名を選抜 訪日代表15名を最優秀賞とする
日本訪問	未定（新型コロナウイルス収束の状況により調整）

② 全国高等学校国語教育研究連合会への助成 予算 205万円

全国高等学校国語教育研究連合会（略称：全国連）と、その傘下の地方組織で開かれている高等学校の国語科教師の研究会（国語部会）での講演会に、講師を派遣して助成したいと考えます。1～2団体への助成を予定しています。

●後援・助成概要（見込み） (単位:円)

内容	聴講者	金額
派遣事業×2	高校の国語教諭	300,000
旅費交通費(派遣・出張費)		400,000
保険料(講師傷害保険)		20,000

※事業に直接関わる費用以外は収支予算書(案)にてご確認いただけます。

③ 全国高等学校文化連盟への協賛・助成 予算 462万円

公益社団法人全国高等学校文化連盟（略称：全国高文連）による、中央・地方の高等学校文芸コンクールを中心に、図書専門部門、文芸専門部会などの読書推進活動への助成です。

講師派遣に加え、2007年度より全国高等学校文芸コンクールに協賛、文芸部誌部門の優秀賞に「一ツ橋文芸教育振興会賞」として、賞状と副賞（集英社文庫50冊セット）を贈呈しています。文学、学術、思想、芸術など様々なジャンルから、良質な議論や情報を取り上げ紹介する新聞「週刊読書人」を買い上げ、全国163校の高等学校国語担当主任教諭に送付したいと考えます。

●後援・助成概要(見込み)

(単位:円)

内容	聴講者／読者	助成額(円)
派遣事業×2	高校の国語教諭・生徒	300,000
全国高等学校総合文化祭	高校の国語教諭・生徒	50,000
全国高等学校文芸コンクール	高校教師・生徒	300,000
週刊読書人	全国高校の163校の 国語担当主任教諭	2,000,000
旅費交通費(派遣・出張費)		600,000
保険料(講師傷害保険)		20,000

※事業に直接関わる費用以外は収支予算書(案)にてご確認いただけます。

④ 「ノベル大賞」への助成

予算 200 万円

新人作家の育成を目的とした「ノベル大賞」は、株式会社集英社と共催する公募文学賞で、若手作家の登龍門の一つとなっています。この文学賞は、氷室冴子氏、唯川恵氏、山本文緒氏、谷瑞恵氏、須賀しのぶ氏ら第一線で活躍する作家を輩出してきました。今年度も引き続き共催、助成します。

●選考委員(敬称略・五十音順)

桑原水菜(作家)、今野緒雪(作家)、三浦しをん(作家)、吉田玲子(作家)

●2021年度 参考(選考結果)

大賞	「シラナイカナコ」 泉 サリ(佐久間泉改め)(神奈川県)
準大賞	「花は愛しき死者たちのために」 柳井はづき(花村はづき改め)(東京都)
佳作	該当なし
応募作	1,773 通

⑤ 「聞き書き甲子園」への助成

予算 50 万円

本年21回目を迎える「聞き書き甲子園」(農林水産省、文部科学省、環境省、公益財団法人国土緑化推進機構、NPO法人共存の森ネットワーク、他が主催)の活動に、本年度も助成したいと考えます。

⑥ 災害罹災校への支援・助成

予算 150 万円

コロナ禍で学習や生活に困難が生じている生徒たちを支援するため、本年度は「あしなが育英会」に100万円の寄付をいたします。また引き続き、自然災害等の発生で罹災した高等学校に対して支援、援助活動を行います。

法人会計

予算 782 万円

以上